進路だより すか草

進路だより　第８０５号
令和６年１０月１０日(木)
多治見高校　進路指導部

長い目でみた「夢を持つ」ということ

私は進路を担当する立場から、夢を持つことや、それをどう実現するかについて語ることが多い。夢や目標がはっきりしていると自分がすべきことがわかりやすくなる。わかるということは心地のよいものだ。私の友人は、今は「夢がないと死んでしまう時代だ」とすら言う。この友人は社会科の教員で他県から来たが、不思議な縁で私の母校に赴任した。次の文章はそんな友人が私の後輩にあてて書いた学級通信の第１号であり、社会科らしい視点から「夢」について語っている。

****

今の時代は夢がないと死んでしまう時代。でも実は、いつの時代にも人には、「生きるやつ」と「死ぬやつ」の二つがあった。大昔。人は生きるためには如何にして食い物を手に入れるか。如何に自分が食い物にならないか。食われないかを考えていた。そして子孫を残すことが使命だった。「食う」か「食われる」か。そして、貴族の世の中になって、人のほとんどは農民階級。重い税を払うため、そして自分が食う分を確保するために、米を作ることがすべてだった。「食う」か「食われる」か。武士。まさに「生きる」か「死ぬ」か。剣を鍛え、よい君主に従い家族を守る。戦争。兵隊。「生きる」か「死ぬ」か。そして国に残した家族を守るために戦った。自分の「死」の上に家族の「生」を勝ち取った。戦後。高度経済成長期。一生懸命働いて、たくさんのものを作れば、お金が儲かる。いい生活ができる。とみんな信じていた。「儲ける」か「儲からないか」。（本当は、それだけでは幸せになれないから、いくつかの失敗をしたわけだけど。）どの時代も「生きるためにやるべきこと」は、自分で考えなくても決まっていた。でも今は「自由」な時代。みんなに身分の違いはない。だからやるべきことを上の身分の人から言われる事はなく「自由」。世の中はどうすればよくなるのか、今ひとつ誰にも分からない。だからいろんな人がいろんな事を「自由」に言っている。ならば「生きるためにやるべきこと」は自分で決めないといけない。決めないと「死んで」しまう。生きていても心が「死んで」しまう。（中略）「夢を持てるかどうか」がこれからの時代の分かれ道。（…続く）

****

昔と比べて今はましだと言いがちだけれど、私の友が本当に伝えたかったことは、どんな時代にもそれなりに困難はあるということ。自由であり不自由でもある生徒たちには卒業してもずっと生きていてほしいこと。だからこそ夢が叶うかどうかではなく「夢は叶うかもしれない」と思えるようになってほしいことである。人生 100 年時代と言われながら、災害や戦争で急に短くなるかもしれない時代。そこに生きる私たちが学校で学ぶべきことは「プロセスの味わい方」だと私は思う。いくつになっても何かに向かって夢中になり、苦難を分かち合える友がいて、少しの変化を楽しめる人は強くて幸せだ。

「プロセスを楽しめるかどうか」が、これからの時代の分かれ道！？　（文責：桑原）

♫３年の窓♫

“shogun”とは英語でしょうか？

10 月に入り、後期がスタートしました！前期期末試験で忙しかった先月ですが、日本人俳優の真田広之さんが主演・プロデューサーを務める「SHOGUN　将軍」というドラマが、エミー賞という米国テレビ業界で最も栄誉ある賞に 18 部門も輝く快挙を達成したというニュースを目にした人も多いのではないでしょうか。ところで、この“shogun”という単語は、実は Oxford English Dictionary (OED)という権威ある辞書にも載っているれっきとした英語なのです。

コーパスでおなじみの投野由紀夫さんによると、「実は OED にはすでに 500 語以上の日本語由来の単語が見出し語として含まれており、アジア地域では日本語が最も OED で掲載されている借用語が多い言語」（※1)だそうです。しかも最近、投野さんが参加した「OED の中に世界諸英語（World Englishes)の視点を新たに加える」プロジェクトの結果、新たに 23 語の日本語が OED に加わったそうです。その 23 語を紹介する OED のウェブサイト（※2)を見ると次の見出しが出てきます。

“Words from the land of the rising sun: new Japanese borrowings in the OED”

「日出ずる国由来の言葉：OED の中の日本語からの新しい借用語」

隋の皇帝に宛てた国書の中で、聖徳太子が日本のことを「日出づる処」と呼んだのは西暦 607 年ですが、その呼称が今なお使われ、英語圏で日本のことを“the land of the rising sun”と呼んでいるのには驚きませんか。

さて、新たな知見を求めて海を渡った遣隋使の時代から時を経て、現代の日出ずる国に暮らす皆さんは、一体次に何を学ぶのでしょうか。

出典：　※1 「ニューサポート　高校英語　Vol.40　OEDに入った日本語由来の言葉」（投野由紀夫著、2024 年、東京書籍）
　※2　https://www.oed.com/discover/words-from-the-land-of-the-rising-sun　（文責：塩原）

♫2年の窓♫

野口英世の出身地は?メンデルってどんな人?

知的好奇心は全ての学習のスタート地点といえます。子供のころに「なんで?」「なんで?」と親に質問責めして困らせたことはありませんか?我が家の子供たちは、まさに質問大魔神。1 日のうちにどれだけ質問という名の挑戦状を突きつけられることか・・・「桃太郎電鉄」をやれば、その中で登場する歴史上の人物(武将や偉人たち)について、質問&知識のお披露目!!「野口英世はどこの人か知ってる?」「うーん。会津だったよね?」「福島県だよ。」「メンデルってどういう人?」「遺伝の法則の人でしょ。」「ふーん。そうなんだ。」「明智光秀を味方にするには土岐を独占。」「平賀源内は讃岐。」などなど。虫にハマれば、「ショウリョウバッタは何を食べるの?」青虫を育てて、モンシロチョウになったら、「モンシロチョウには何をあげればいいのかな?」夏に蝉の鳴き声を聞けば、「アブラゼミだね。」「あ、ミンミンゼミ。」「ツクツクボウシだ。」質問責め時々ご自慢の知識披露によって我が家は毎日非常に賑やかですが、仕事から帰ってご飯の準備、次の日の準備、宿題の添削などなど、大忙しの中子供たちの会話に付き合うのもなかなか大変で、頼むから後にしてくれよと思うことも度々。でも、このやりとりがきっととっても大事!!「気になる。」「知りたい。」を大切にすることが、将来の学びにつながるはずと信じて、日々格闘しています。

さて、高校 2 年生のみなさんはどうでしょうか?今、すごく気になる学問、身のまわりのニュース、事象はありませんか?高校 2 年生が終わる頃までには進路について具体的な目標を定めていきたいものです。今一度自分が興味関心を持てる分野は何なのか、じっくり向き合って考えてみてください。

(文責:紀平　)

♫1 年の窓♫

公共哲学のすすめ

今年は世界各国で重要な国政選挙が実施されています。60 以上の国と地域で実施され、関係する有権者数は世界人口の 4 分の 1 になるといわれています。すでにイギリス、インド、EU、フランス、南アフリカなどで大きな変化が報じられています。アメリカ大統領選挙が 11 月に実施され、日本の自民党と立憲民主党の党首選挙が行われたということで関連の報道が頻繁になされているので、関心のある人も多いと思います。

昨今の国政選挙で注目を集めているのが候補者同士の政治討論です。アメリカの大統領選挙についてテレビ討論が放映されましたが、国民には一種のイベントショーとして受け止められ 11 月に向けて盛り上がりが見られます。アメリカで政治討論が注目を集める背景には、こうしたメディアの働き以外に多様な価値・立場・主義の対立や台頭が明確となった分断国家としてのアメリカの事情があるといわれてきました。しかし、そうした状況は、ポスト冷戦、ポストモダン、グローバル化、新自由主義などの進展とともに今世紀に入って世界中で見られるようになっています。

こうした政治討論の論点は、環境・経済・宗教・教育・医療・労働など様々な分野にわたり、政治家や専門家だけで解決できない複雑な課題ばかりです。しかもかつては個人(私)の分野の問題と見なされていたことが、広く我々(公)の未来世代にも及ぶ重要な課題となっていて合意形成が難しくなっています。こうした意味で他人事とせず注視し、他者と熟議をして最後は我々が責任をもって決定を下さなければなりません。

現在このような「公共性」(広く社会一般に利害や正義を有する性質)にかかわる議論が活発に行われています。そしてこれらの課題を学際的で総合的に学ぶ学問として今注目を集めているのが「公共哲学」です。こうした課題に関する、①事実の分析、②価値の考察、③価値の実現を研究する新しい学問分野です。特定分野の専門的・実証的研究も大切ですが、現状に根差した課題を臨床的・総合的・対話的に学び、より良い未来を創造し実現していこうとする学問分野を一度覗いてみませんか。　(文責:今井)